

九頭竜川直轄河川改修事業

平成15年10月14日
国土交通省 近畿地方整備局

九頭竜川直轄河川改修事業

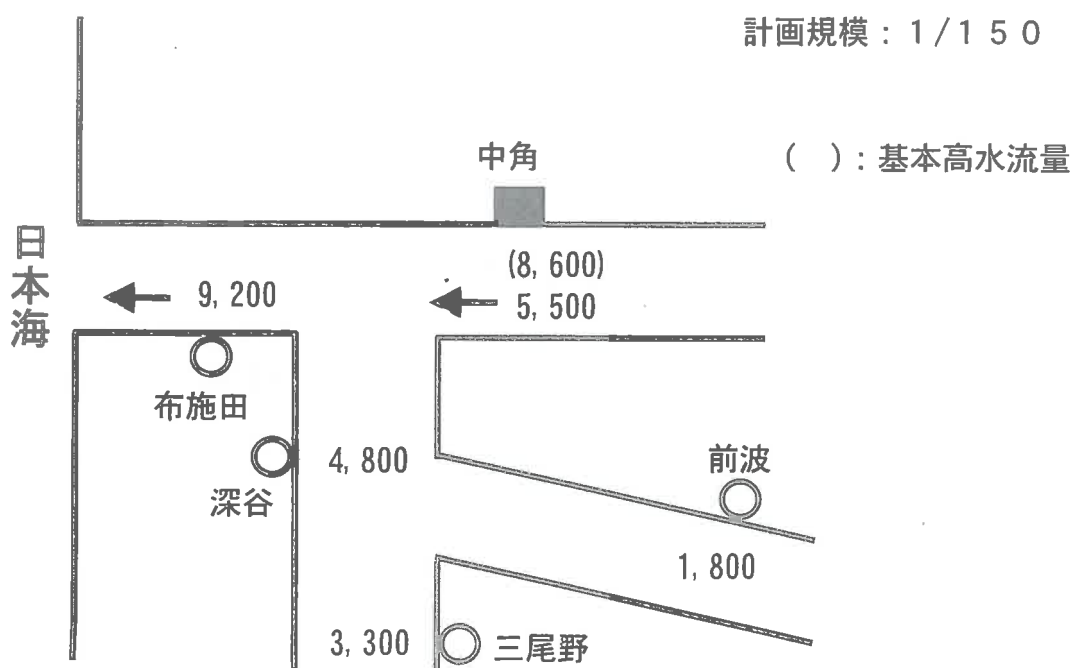
1. 九頭竜川改修事業の概要
2. 事業の経緯
3. 事業をめぐる社会情勢の変化
4. 事業の投資効果
5. 事業の進捗状況・見込
6. コスト縮減や代替案立案等
7. 対応方針（原案）
8. 流域委員会での審議状況

2. 事業の経緯

(1) 工事実施基本計画の変遷

年	変遷
明治33年	九頭竜川第一期改修計画を策定
昭和31年	九頭竜川再改修計画を策定
昭和35年	改修変更計画を策定
昭和41年	1級河川指定、工事実施基本計画策定
昭和43年	工事実施基本計画の第1回改定
昭和54年	工事実施基本計画の第2回改定＝現工事実施基本計画

(2) 工事実施基本計画における計画高水流量配分図



3. 事業をめぐる社会情勢の変化

(1) 既往洪水による被害状況

生起年月	洪水要因	九頭竜川流域の洪水被害	
		流失・損壊家屋数	浸水家屋数
S23年7月	梅雨前線	2,955	25,761
S28年9月	台風13号	1,252	17,627
S34年8月	前線・台風7号	54	12,889
S34年9月	伊勢湾台風	99	6,548
S36年9月	第2室戸台風	125	4,361
S40年9月	台風23号・奥越豪雨	354	2,638
S56年7月	梅雨前線	21	2,980
H10年7月	梅雨前線	1	574
H10年8月	前線	1	343

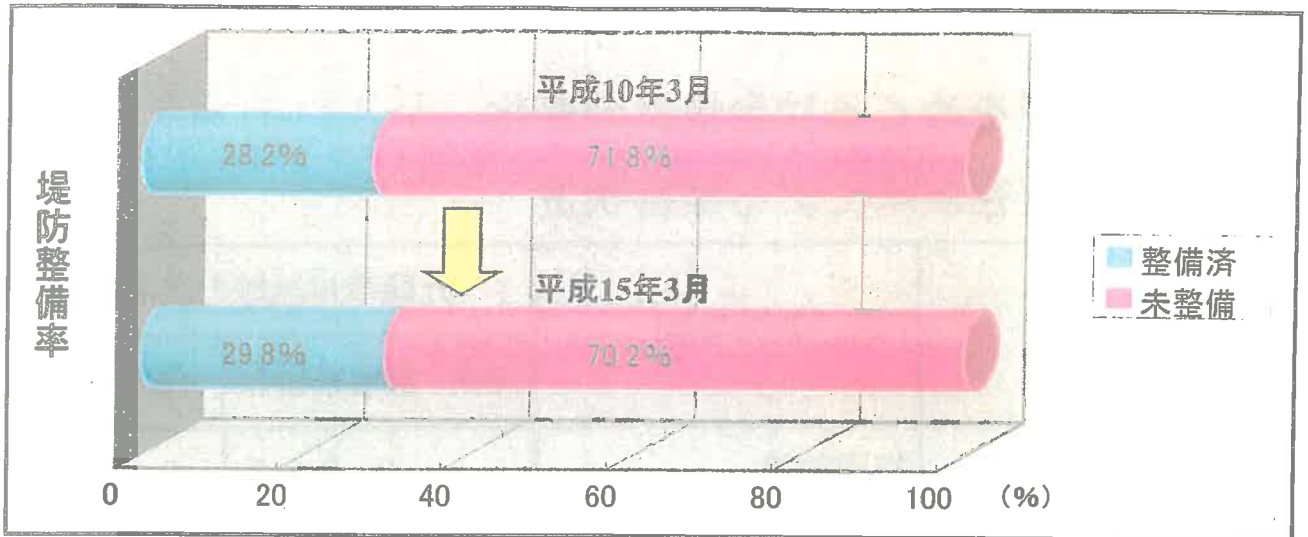


福井市花月町付近(S28年:台風13号)



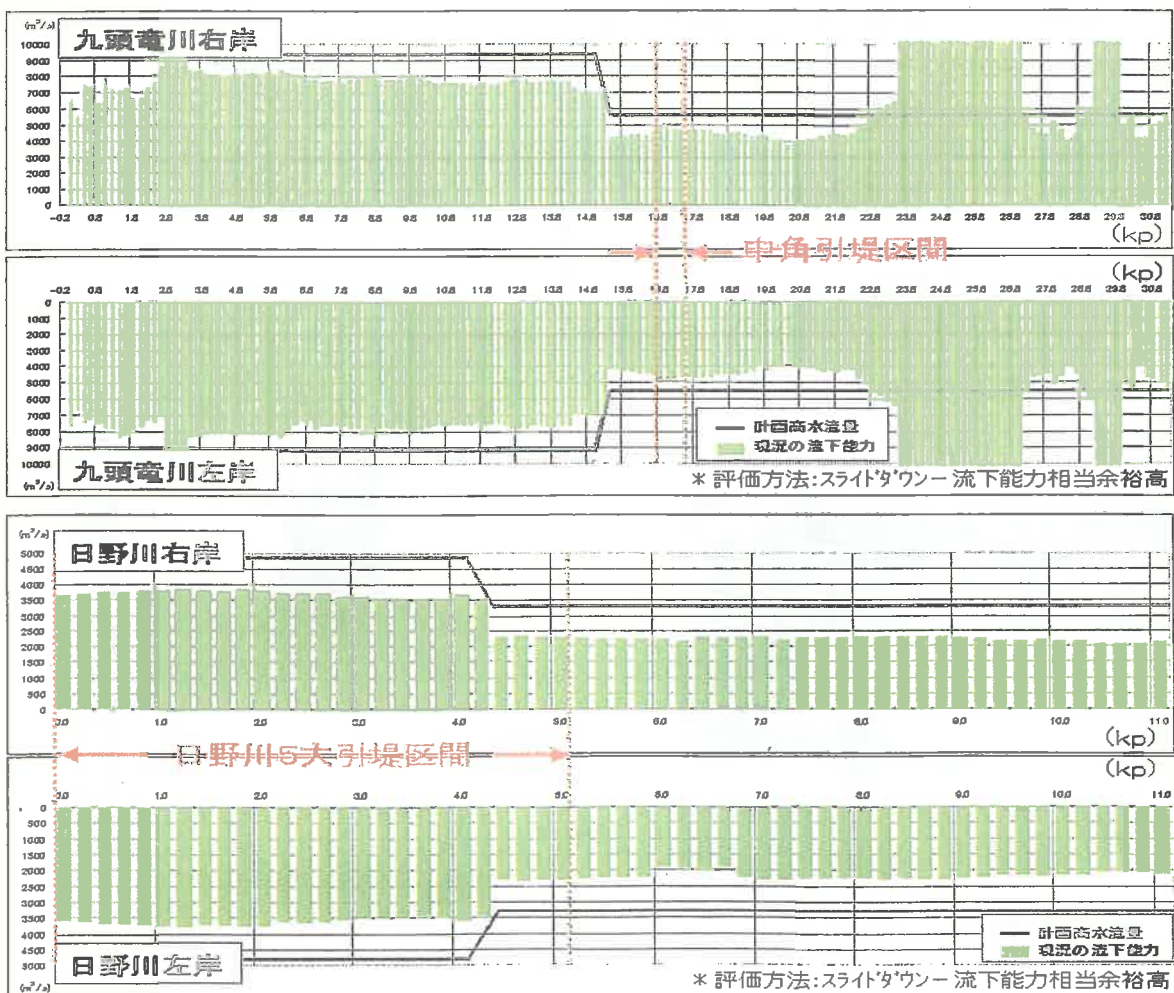
福井新聞(S28年:台風13号)

(2) 堤防整備率

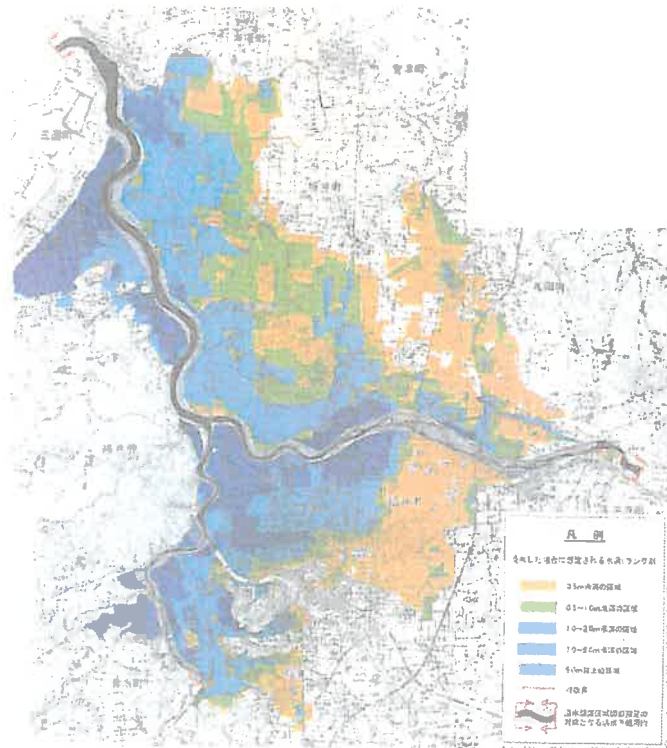


平成15年3月末現在の、九頭竜川水系における完成堤防整備率は、約29.8%です。

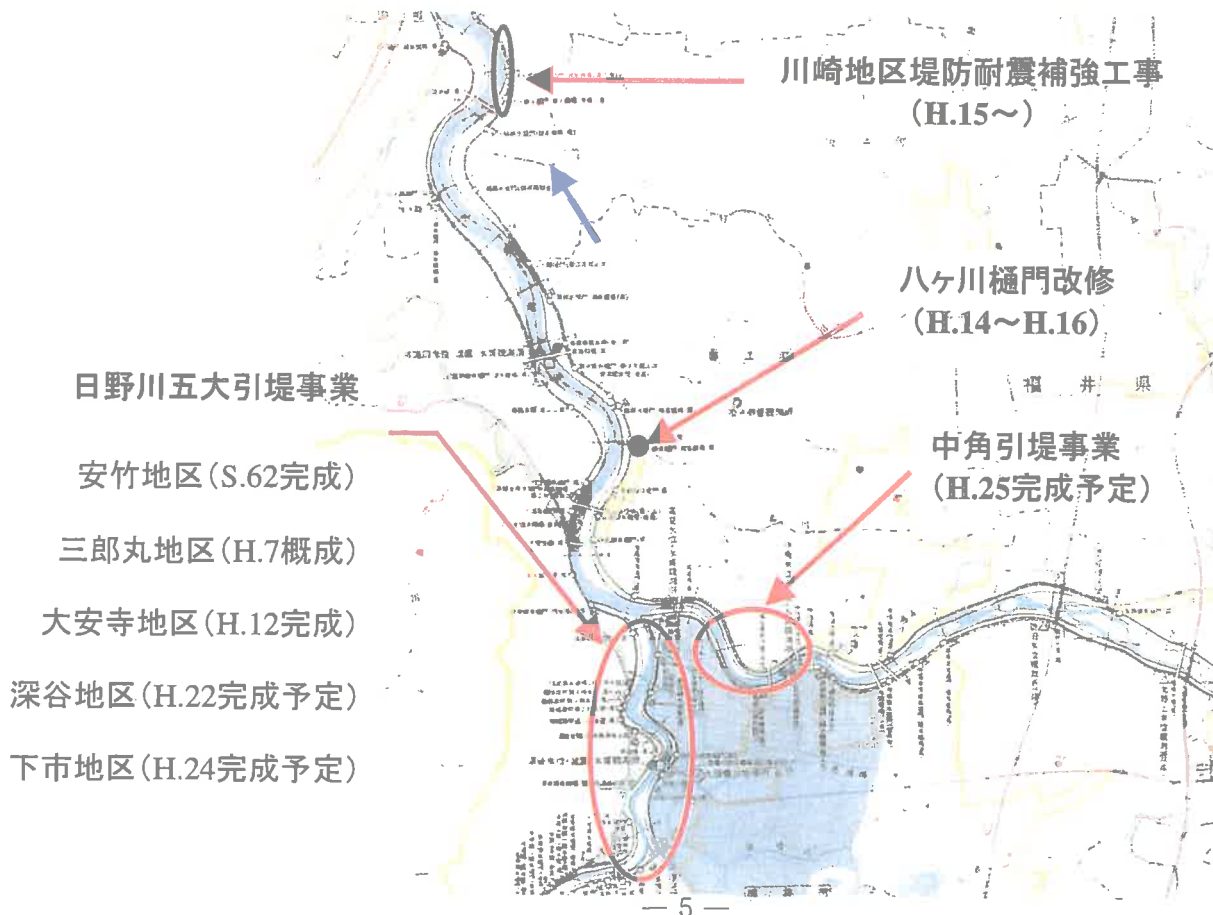
(3) 流下能力図



(4) 浸水想定区域図



(5) 前回評価からの事業実施箇所



4. 事業の投資効果

①便益 (B)

- ・年平均被害軽減期待額 9 2 9 億円
- ・評価対象期間における総便益 6, 0 3 4 億円

②総費用 (C)

- ・建設費 2, 7 1 3 億円
- 〃 (現在価値化) 6 9 1 億円
- ・維持管理費 (現在価値化) 1 1 9 億円
- ・残存価値 3 億円
- ・総費用 $6 9 1 + 1 1 9 - 3 = \underline{8 0 7}$ 億円

③費用便益比 (B/C)

$$6, 0 3 4 / 8 0 7 = \underline{\underline{7. 5}}$$

5. 事業の進捗状況・見込（主要箇所）

①中角引堤事業

九頭竜川中流部の京福電鉄九頭竜川橋梁が架かる中角地区は、湾曲しているうえに川幅が極端に狭いので、治水安全度を向上させるために、河道拡幅を実施する必要があります。現在は、引堤箇所に遺跡が発見されたためH17まで調査中です。

②日野川五大引堤事業

九頭竜川合流点～足羽川合流点区間は、川幅が狭くかつ蛇行が著しいうえに河床勾配も緩く、九頭竜川本川にほぼ直角に合流していることもあり洪水ともなれば流れが滞ります。このような状況を解消するため、引堤を行い河積を広げる必要があります。



中角引堤事業

日野川五大引堤事業

赤線：整備済

緑線：未整備

6. コスト縮減や代替案立案等

(1)コスト縮減

引堤事業に伴い発生した掘削土は、ほ場整備等で有効活用します。

(2)代替案

現計画は、計画高水流量 5,500m³/s を河道で対応することとしていますが、現計画以外に①堤防嵩上げ、②河床掘削等を検討しました。以下に①②の問題を示します。これらを踏まえると、破堤時の危険性増大や、取水影響により九頭竜川では現計画が最適です。

① 堤防嵩上げ案

・計画高水位を上げることにより、破堤が発生した場合の危険性が增大します。

② 河床掘削案

・塩水が遡上し、取水に影響します。

7. 対応方針（原案）

【事業継続】

九頭竜川直轄河川改修事業では、堤防の整備率に見られるように未整備延長が、2／3以上残っており、過去の大洪水と同等の洪水が起こった場合、甚大な被害が生ずると思われます。

このことから、河川整備計画が策定されるまでの当面の間、事業は継続します。

8. 流域委員会での審議状況

